

2020 年度 国語（人外法経）出題の意図

問題Ⅰ

本問は、国家や政治、そこでのナショナリスティックな情念や、国家とその構成員との関連をあつかう哲学的批評文を読み、その内容について正確に理解できているかどうかを問うものである。比較的長文の、思想や政治的考察にかかわる文章を短い時間で的確に読みこなし、内容について正確な記述ができるかを主眼としている。

問一 文中にもちいられている漢字を正確に書くことができるかを問うものである。何れも人文系の文章にとって基本となるものである。

問二 本文の文中に付された傍線部分の文章の意味を、前後の文脈を理解しつつ正しく理解しているかを問う問題である。国家の同一性が「器用仕事の」「モザイク的」とであるということの内実を、その幻想的な成り立ちや、歴史的根拠を求めること自身が疑わしいという点から、明確に説明できているかがポイントになる。

問三 比較的長文である本文全体で考察を的確に視野にいれ、筆者自身が数多くの論者を引用し記述する国家へ一般的な捉え方に二つの方向性があることを明示させ、あわせてそれに対して筆者がもっている疑問を整理し記述させるものであり、長文での解答を要求している。制度として存立する国家と、ある種の理念や幻想として存在する国家という考え方の方向性を明確に切り分け、なおかつそうした国家の把握によってはこぼれ落ちるナショナリスティックな情念や、国家を運用する主体と国家との関係などが記述されていること、さらには比較的長文を書かせることにより、構成力の整った文章を自ら記述することができるかを問うている。

問題Ⅱ

本問題の狙いは「読む力」とともに「書く力」を試すことである。すなわち、該当箇所を本文から抜き出してうまく回答欄にあてはめるような技術を求めるのではなく、解答を作成するうえで、適切なことばを選択して、論理的に説明を行うという力を問う。抽象的で、ときに直接的ではない文章が、本質的に何を言わんとしているのかを、正しい言葉の選択で自分なりに説明し直すということができれば、ここで問いたいことである。

近年、情報のやり取りは簡素化される傾向にある。作問者はその時代の流れを批判・否定するわけではないが、そうした時代だからこそ、精確に、自分の意図を言語化できる力を持つておくことが大切となる。ことばの豊かさは世界をみる目を豊かにする。その意味で、本問題は読解もさることながら、本文の言葉遣いによらず、適切な言葉を自分で選択して、解答を作成する力を問うた。

問題Ⅲ

出典は和歌を含む中世の説話である。基本的な古文の文法や語彙が理解できていて、文脈

読解の基礎能力が身についているかを問う問題である。

問一 基本的な古文単語・文法の理解を問う問題である。

問二 和歌を正確に現代語訳できるかどうかと、比喻表現を理解したうえで登場人物の心情を説明できるかを問う問題である。

問三 文脈をふまえて適切な現代語訳ができるかを問う問題である。

問四 本文を正確に理解し、適切に要約する能力を問う問題である。

問五 本文を正確に理解したうえで、場面の状況および作者の考えを適切な日本語で説明できるかを問う問題である。